



保健補導員発祥の地「須坂」

「保健婦さん、何か手伝わせてくれないか」 婦人たちの一声からはじまる

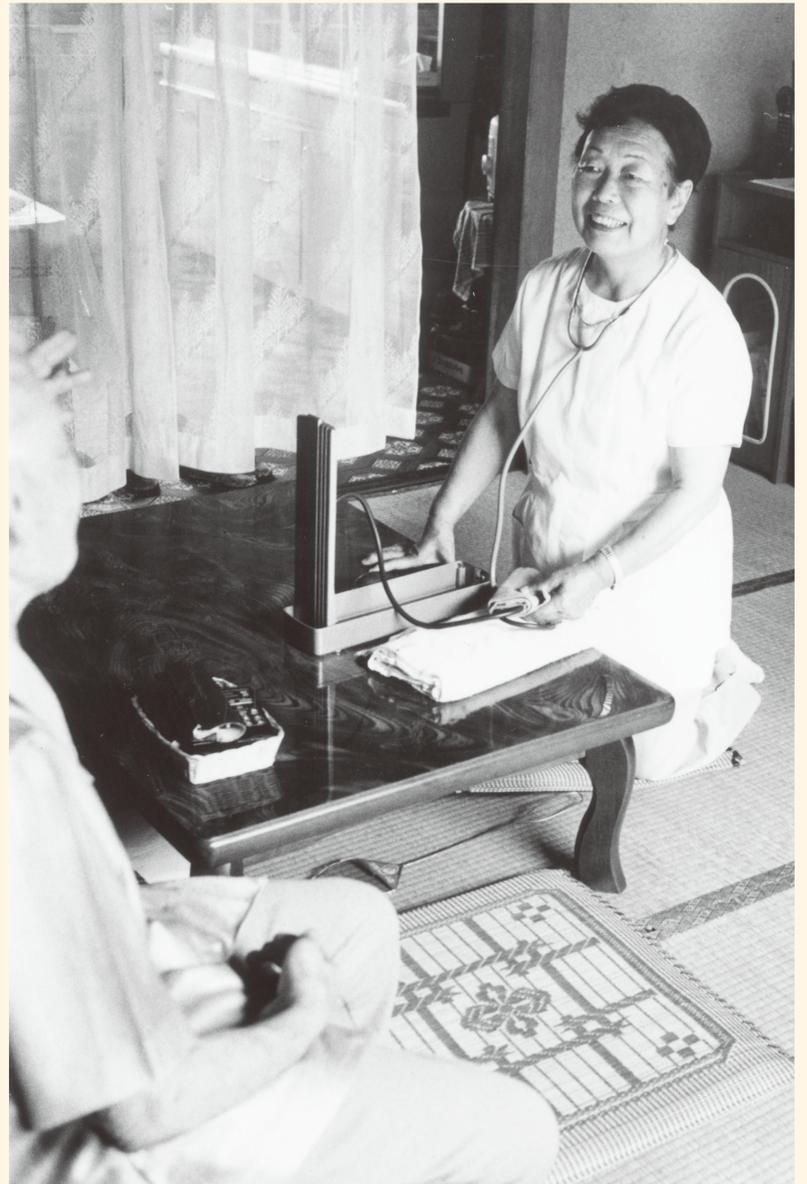
保健補導員制度は、昭和20年、須坂市に合併する前の旧高甫村から始まった。

村民の健康管理のため日夜とびまわる大峡保健婦の姿を見て、村の婦人たちから「保健婦さん、何か手伝わせてくれないか」という申し出がされた。

こうして生まれたのが「保健補導員会」であり、昭和20年4月から正式に活動を始めた。

昭和33年 市全域に保健補導員制度設置

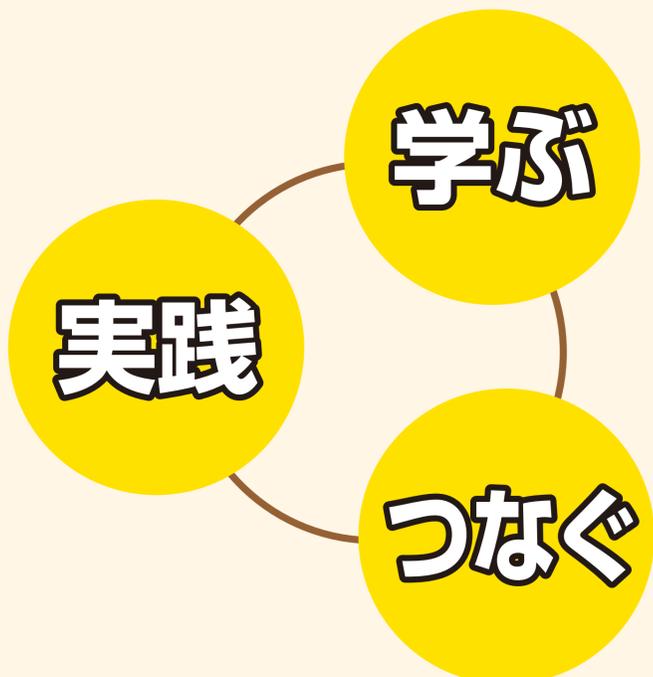
昭和29年、須坂町と周辺の村々が合併されるにあたり「一家にひとり保健補導員」を目指して、昭和33年4月「須坂市保健補導員制度」が設置された。第1期須坂市保健補導員会は154名でスタートし、第1回全体研修会は、保健補導員活動についての話し合いが行われた。



保健補導員制度の生みの親 大峡美代志保健婦

「町の人たちの健康な生活を目指して活動する」

任期2年を1期として活動。その2年間に健康に関する基本的な学習を重ね、学んだことを自ら実践し、家族や地域に伝える活動を続け、市民の健康づくりの輪をつないでいる。



第1回全体研修会